

平成25年10月4日

尾張旭市総合計画審議会第2部会 報告 (都市基盤、自然・環境、市民生活)

1 開催日及び会議概要

(1) 第1回

ア 開催日 平成25年8月 2日(金) 14:00~16:15

イ 会議概要

(ア) 基本構想(案)について

(イ) 政策3について

(2) 第2回

ア 開催日 平成25年8月29日(木) 14:00~16:25

イ 会議概要

(ア) 政策5について

(イ) 政策7について

(3) 第3回

ア 開催日 平成25年9月13日(金) 14:00~15:55

イ 会議概要

(ア) 政策の大綱について

(イ) 部会のまとめについて

- ・各回とも、活発に審議が行われ、各委員から意見や提案をいただきました。それらの意見や提案の概要は、別紙のとおりです。

2 部会総括

- ・当部会の審議範囲について、全体的な計画の構成、内容は概ね了承できますが、委員から修正も提案されていますので、これらを十分に踏まえて、総合計画書への反映を検討してください。
- ・まちづくりを進めるにあたっては、行政だけではなく、市民参加によって進めていくことが重要となります。
- ・当部会では、総合計画に基づくまちづくりとして、どの分野に注力するのかなどの具体的な記載が無く、市民にとって分かりにくいという意見が出されましたので、重点施策などを記載するよう検討してください。
- ・当部会を通して委員から出された意見や提案に対して、市は、前向きに取り組んでください。

総合計画審議会第2部会 概要

(都市基盤、自然・環境、市民生活)

1 基本構想（案）について

(1) 将来都市像について

- 尾張旭のブランドである「健康都市」を簡単に変更して良いとは思わない。健康都市に少し文言を加えたようなフレーズにしてはどうか。
- このあたりの地域に転入してくる人たちに、尾張旭の個性を伝えられるようなインパクトのあるものが良いと思う。
- 都市像がキャッチフレーズならば、短い方が良い。都市像の内容自体はとても良く、都市像の説明も十分理解できる。
- 「みんなで支えあう」ことは安心できる暮らしのために必要で、「緑と元気あふれる」には緑や健康、農業や商業も含まれており、「住みよいまち」には尾張旭に住みたいという思いが込められている。今の時代にあった都市像であると感じる。
- 将来の都市像は、そこにどれだけ作った人たちの思いが含まれているのかが大切である。この都市像は、庁内会議で十分に練られたものであり、思い入れのあるものなので良いと思う。ただし、市民の方の思いがこれと反対の方向を向いているのであれば変更しても構わない。
- 今回の都市像は、過去の都市像を全部合わせた、集大成ともいえる都市像だと思う。
- 全国的な人口減少が予測される中、尾張旭はこれからも人口を増加させていく目標を立てており、「緑あふれる 住みよいまち」にはその思いが込められている。
- 今後、まちをPRしていく際には、都市像とは別にキャッチフレーズがあっても良いのではないか。

(2) 政策の大綱について

ア 政策3について

- 区画整理を実施しない地区の市街地整備をどうするかという点で、「地域の特性を保ち、古くからのコミュニティ社会を残すように、さらに防災に強いまちづくりを重視した市街地整備を進めます。」といった記載を追加して欲しい。
- 一番市民が望んでいるものは下水道の整備だと思うので、下水道の整備を大綱の冒頭に記載してはどうか。

イ 政策5について

- 今あるものを保全するだけでなく、民地の緑化も含めて、新しい緑

を作りだしていくことで公園都市づくりを進めていくのであれば、緑・水辺環境の「整備」より「創出」と記載すると良い。

- 国では環境に関する社会像として「資源循環型社会」・「環境共生社会」・「低炭素社会」が掲げられており、表現を直すことで、国の政策等と整合が図られるのではないか。

ウ 政策7について

- 大綱に、公民館でのコミュニティ活動実施を念頭に置いて「公共施設を有効に使うことができるよう充実させる」ことを追加してはどうか。
- 自らまちのために行動する市民になるためには、まちのことをきちんと知ったうえで、まちに愛着を持ち、まちづくりに関わっていただくことが重要。
- 国際理解教育の実施や、国際交流活動に取り組む団体があることから、国際交流・多文化共生に関する表現があると良いのではないか。

2 政策3（都市基盤）について

(1) 施策3-1「質の高い住環境の整備」

- 今後も土地区画整理による整備手法を進めることは難しい。地区の特性に応じた整備手法の検討が必要であるが、区画整理に変わる整備手法を総合計画のどの部分から読み取ればいいのか分かりにくいように思う。具体的な事業がとらえにくいため、基本事業として記載してはどうか。
⇒（事務局回答）区画整理に変わる整備方法による事業は、基本事業の3-1-1に含まれてくるものとは思いますが、まだ具体的な整備手法が固まっていないため、基本事業として独立させることは難しい。

(2) 施策3-2「快適に移動できる交通基盤の整備」

- 今後は自転車利用者の増加が見込まれるため、自転車専用レーンの整備について検討した方が良い。
- 基本事業3-2-3の成果指標である歩道のバリアフリー化実施箇所数が増加しているにも関わらず、道路段差に不便を感じる市民の割合が減っていない事には矛盾がある様に思うので、成果指標の変更などを考えてはどうか。
⇒（事務局回答）道路段差に不便を感じる市民の割合については、手元の資料では、平成20年度からの数値しか確認できないが、平成14年度に42.5%、平成18年度に33.1%であったものが下がってきており、平成20年度以降横ばいになっている傾向である。

(3) 施策3-3「安全で安定した水の供給」

- 災害時等を考えると、個人や企業が設置している井戸の数を把握しておいた方が良い。

- (4) 施策3-4「衛生的で快適な下水道の整備」
 - 人が居住している区域を分母とした、面積に基づく「下水道普及率」を算出していただきたい。
- (5) 施策3-5「雨水対策・河川整備の推進」
 - 道路冠水が発生する場所を把握し、計画的に整備を進めていただきたい。

3 政策5（自然・環境）について

- (1) 施策5-1「資源循環型社会の形成」
 - ごみの発生を抑制すること（リデュース）、再利用を推進すること（リユース）、再資源化すること（リサイクル）という優先順位から、基本事業03と04の順序を変えた方が良い。
 - ごみの処理よりもごみの収集の方に課題があると思うので、基本事業の名称を「ごみ収集処理体制の整備」という様に文言を追加してはどうか。
 - 現状と課題において、「高齢者などに配慮したごみ収集方法の検討が求められます。」という記載があるが、この課題に対する対応策が示されていないため、記載を検討した方が良い。
- (2) 施策5-2「地球にやさしい生活の推進」
 - 地球環境保全是、改善が必要とされる政策課題であると思うので、具体的な方策があれば、県の計画なども踏まえ、全体的にもう少し高い目標を掲げた方が良い。
 - 基本事業03「総合的な環境行政の推進」に、市民協働の理念が含まれていないので、記載を追加した方が良い。
- (3) 施策5-3「身近な緑・水辺環境の保全と創出」
 - 緑地の創出だけではなく、管理が特に重要になってくるかと思うので、保全という記載だけではなく、管理についても記載してはどうか。
 - 成果指標の目標値だけを見ると、現状維持のトーンが強いように感じられ、公園都市としてまちづくりを進めてきた尾張旭市の魅力が出てこないように思うので、公園都市としての特性や取り組みを「施策をとりまく現状と課題」に補記してはどうか。
 - 緑に関する共通指標として、「住民一人当たりの都市公園面積」を施策をとりまく現状と課題に記載してはどうか。
- (4) 施策5-4「生活衛生環境の向上」
 - 地域に住んでいる者として、生活排水対策に取り組んでいるが、生活排水対策については、この施策で取扱うものか。他市では、河川の水質保全と併せて生活排水対策の推進を基本事業として位置付けることもあるので、検討してはどうか。

4 政策7（市民生活）について

(1) 施策7-1「市民によるまちづくり活動の推進と支援」

- 地区公民館を活動の拠点にしてはどうか。また、管理を市長部局に移すことや地域のかたが集まることのできるスペースとサポートができる職員の配置が実現すると、自治会加入率も増えるのではないか。
- 青色回転灯の搭載車による防犯パトロールの取り組みは、他市に比べて積極的に取り組まれているので、基本事業に「特色ある地域活動への支援」について記載してはどうか。

(2) 施策7-2「にぎわいの創出とまちへの愛着意識の向上」

- 市に愛着を持ってもらうためには、市民に尾張旭市のことを理解してもらうことが重要であるので、市の歴史や文化を知ってもらうことが大切ではないか。
- この施策ではにぎわいやふれあいの創出を意図しているので、「交流人口」を拡大する成果指標とした方が良い。

(3) 施策7-3「男女共同参画社会の形成」

- 行政として施策を展開していくのであれば、子育て支援などの若い世代の夫婦が共に働くことができるような環境づくりなど、市として実施出来る取り組みを記載した方が良い。